

近所の農家さん

なまため かずゆき
生天目 和行さん
 (78)

(西秋留地区)

生天目和行さんは、約1ヘクタール(3000坪)の畑でダイコン、ブロッコリー、トウモロコシ、ショウガ、わさび菜など年間約20品目を栽培し、秋川ファーマーズセンター(FC)やイオンモール日の出に出荷している。

毎日、朝4時半に起床、5時に

イオンに納品。一旦5時半に自宅に戻り、朝食を取ってから次の荷を準備して、7時に秋川FCの納品の列に並び、納品後、8時には畑へ行き、暗くなるまで働く。

家庭菜園好きの奥様の恵子さんと一緒に畑を始めたのがきっかけ。どんどん畑が広がり、たくさんの野菜を収穫できる喜びも増えた。

定年退職をした頃に知人に声



旬のブロッコリー畑で

をかけられ、日の出イオン内にある野菜販売所に「のらぼう菜を出荷し始めた。厳しい出荷規格やニーズにこたえ、年間

を通してさまざまな野菜の出荷を続け、15年目になる。最近では、若手農業者にもイオンへの出荷を勧め、販路拡大を促している。2012(平成24)年4月に秋川FC直売所運営委員会(当時)の会員になり10周年を迎える。

どの野菜を育てるか、種を決めて苗を作るのは恵子さんが担当。良い畑作りと野菜を育てるのは和行さんと役割分担をしながら栽培をしている。「畑作りはひとりでもできるが、野菜を育てて出荷するのはひとりじゃできない」と夫婦共同作業の必要性と利点を話す。

趣味は、災害時などに非常通



寒にあたり甘みが増したおふくろダイコンの収穫



信手段として役立つことが再注目されているアマチュア無線。24歳で免許を取得し、若いころは夜中まで交信に夢中になった。免許更新を続け、今も受信を楽しんでいる。

現在、長男の昌也さんは都の「フレッシュ&Uターン農業後継者セミナー」を受講し、後継者として勉強中。

和行さんは「後継者として、しっかり学んできてほしい」と期待を寄せる。